

香美町ならではの 教育の挑戦

ギガ GIGA スクール構想

●問い合わせ先 町教育委員会教育総務課

近年の高度情報化社会の中にあって、子どもたちがコンピュータやインターネットをはじめとする情報通信技術（以下 ICT）をうまく活用し、情報社会に主体的に対応できるさまざまな力を育成することが喫緊の課題となっています。

こうした中、文部科学省は児童生徒向けの「1人1台の学習用端末」と「高速大容量の通信ネットワーク」を一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された創造性を育む教育を実現させるための「GIGA スクール構想」を打ち出しました。

本町では、今年度中に1人1台の端末や最新の大型電子黒板などを導入します。



▲今年度末には児童生徒1人に対し、1台の端末が導入されます

GIGA スクール構想が実現すると何が変わる？

新型コロナウイルス感染症の影響で、長期の臨時休業となった年度当初。「自宅でどう勉強をすれば」と、混乱した家庭も多かったのではないのでしょうか。この緊急事態下において、ICTを活用した学習に注目が集まり、GIGA スクール構想の早期実現が進められました。

具体的には、インターネットを利用した遠隔授業や学習動画の配信といった、自宅にいても学びを止めない措置が求められました。

今後は、学校の授業でも活用していくことで、次のような効果が期待されています。

①子どもたちの学びの深化

図形問題をタブレット上で実際に動かして立体的な理解を深めさせたり、複雑な時代背景やあらすじを映像で見せることで学習の動機付けを効果的に行ったりするなど、映像やアニメーション、音声を活用することにより興味関心を引き付け、学習意欲を向上させることができます。

②学習効率アップ

オンラインでつながっていることにより、黒板の内容を生徒側の端末にワンタッチで共有できます。書き写しの時間を短縮できれば、その時間を思考力・表現力・創造力を深める活動に充てることができます。

他にも、ICTを活用することで、一人一人の理解度、レベルに応じた出題や、特別な支援が必要な子どもたちに対する指導やサポートなど、個に応じたよりきめ細やかな対応が可能となります。



▲黒板の内容を生徒の端末に共有することもできます

現在、町内の学校では、校外活動が制限される中、テレビ会議アプリを活用した交流授業や勉強会を行っています。7月には余部小学校が同校と同じく複式学級のある和歌山大学教育学部附属小学校と交流。全児童が趣味・特技を伝えあうなど、オンラインでコミュニケーションを図りました。